

日本のポンペイ

～ 渋川市の遺跡を探る ～

No. 6

『有馬条里遺跡』

有馬条里遺跡は、八木原地区内にあり、昭和57年から59年にかけて、関越自動車道の建設の際に発掘調査が行われました。

遺跡名は、土地改良以前にこの地区に見られた水田区画が、古代の土地区画制度である条里制の姿を残しているといわれたことによりですが、この発掘調査では、残念ながらそのことを確認できませんでした。

調査で見つかったものは、弥生時代～平安時代の竪穴住居跡、弥生時代の墓、古墳時代の畠や水田などさまざまですが、特に注目したのは、この地域の土地利用の変遷が榛名山の火山災害を通して分かることです。

この場所は、弥生時代から古墳時代中頃まではムラがあり、多くの竪穴住居や畠が作られていました。ところが、榛名山の噴火で火山灰に覆われ、その後厚さ1m以上の泥流で埋没したのです。当時の人々は、この上に広大な水田を造成し、米づくりに励みましたが、次の噴火で軽石下に埋まってしまいました。その後人々は再びムラを営み、平安時代まで続いています。たくましく復興に取り組む人々の姿が浮かんでくるようです。

(市文化財保護課)



発掘調査中の有馬条里遺跡